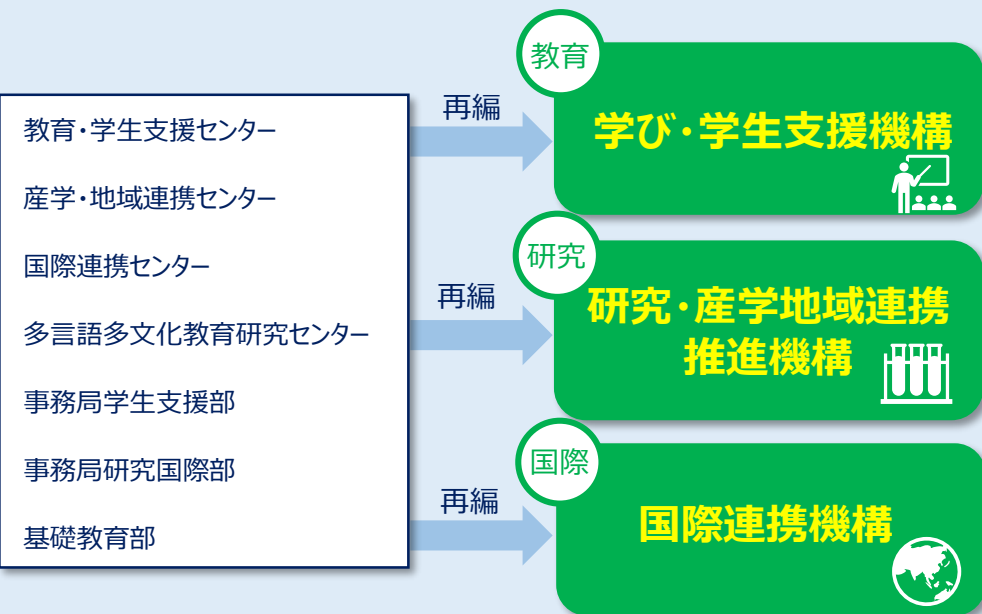


1. 教職協働体制による教育研究支援組織の整備

令和4年10月に、教育研究機能の向上を目指し、**教職協働**による教育研究支援組織（学び・学生支援機構、研究・産学地域連携推進機構、国際連携機構）を整備した。

複雑だった教育研究施設と事務局の指揮命令系統を一本化する組織整備を行うことで、戦略的な教育研究企画の立案から迅速な意思決定及び各部署や学内共同教育研究施設とのより円滑な連携が実現する。



機構化の特徴・効果

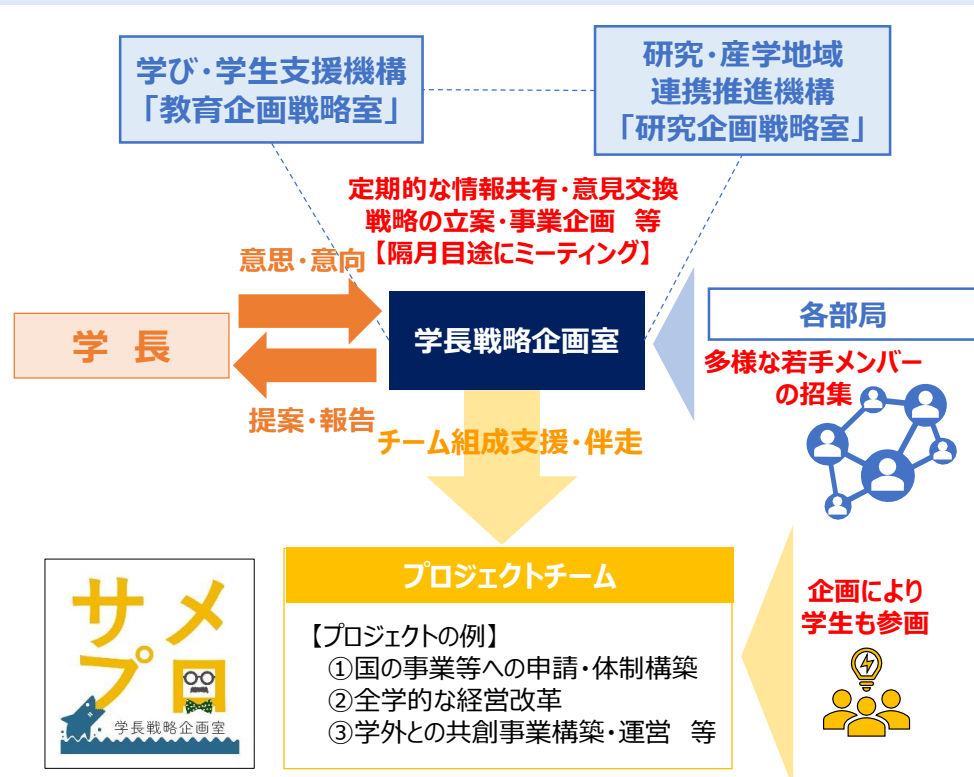
- 機構長（理事等）の下、指揮命令系統を一本化
- 戦略的かつ機動的な企画立案、迅速な意思決定と実行が可能
- 各種プロジェクトや業務を、教職協働により実行
- 各学部等の事業を機構組織で集約し、機能的かつ効果的に実行
- 大学と関係機関等との連携を、強固かつ大きな連携へと転換

2. 学長のガバナンス体制及び大学経営機能の更なる強化

学び・学生支援機構と研究・産学地域連携推進機構に、**戦略的な教育研究企画の立案から迅速な意思決定**を実現するため、それぞれ教育企画戦略室、研究企画戦略室を設置した。

令和4年11月には学長戦略企画室との連携体制を構築し、各戦略企画室が推進する事業・プロジェクト、課題等についての情報共有が行われ、本学全体の機能強化推進に努めている。

また、学長特命プロジェクト制度「サメプロ」を立ち上げ、**ガバナンス体制を強化**した。「サメプロ」は、大学改革や教育・研究の向上に必要な様々な事項に関して、企画から実装まで一気通貫して組織的に取り組む、トップダウンによるプロジェクト推進の制度である。



5. 「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」の採択

東京慈恵会医科大学と連携して「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」に申請し、採択された（令和4年度補助金交付額：77,214千円）。これは本学と、宮崎県高岡町出身の高木兼寛を学祖とする東京慈恵会医科大学の間で締結された大学間包括的連携協定を基盤に、本学が代表校を、東京慈恵会医科大学が連携校を務めるもの。新たに確立する<KANEHIROプログラム>では、「キャリア形成卒前支援プラン」として、地域医療や多職種連携に関する講座型科目を拡充し、実習型科目の診療参加型臨床実習に地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおく専門コースを新設。また、**地方と都市の異なる地域特性を補完**する単位互換性の交換実習を実施し、オンデマンド教材やVR・シミュレーションによる領域横断的な教育も展開していく。地域枠と連動しながら、新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わずに適切な医療を実践できる医師を養成し、地方が抱える**医師不足や医師偏在の解消**に資する教育モデルの確立を目指す。

令和4年度 大学教育再生戦略推進費「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」

地方と都市の地域特性を補完して地域枠と連動しながら広がる医師養成モデル事業 ～KANEHIROプログラム：病気を診ずして病人を診よ～



代表校：宮崎大学／連携校：東京慈恵会医科大学

大学間包括的連携協定



令和4年度以降

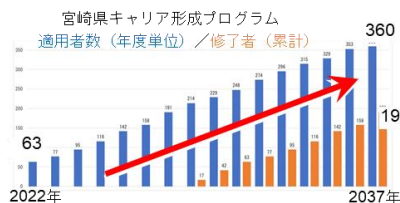
- 地域枠A 10人
・県内の高校卒業生（現役のみ）
- 地域枠B 15人
・県内の高校卒業生（既卒2年目まで）
- 地域枠C（日本のひなた枠） 15人
・県内含む全国の高校卒業生（既卒2年目まで）

- 【宮崎大学医学部】
- 令和4年度入学者選抜から地域枠をA/B/Cの3枠に再編
 - 恒久定員内で地域枠を40名に拡充
 - 地域枠C「日本のひなた枠」（定員15名）を新設

地域枠と連動した教育プログラム・コース ～KANEHIROプログラム～

重点分野：地域医療学、救急・災害医学、感染症学、総合診療医学

地域医療や多職種連携に関する講座型科目を拡充し、実習型科目の診療参加型臨床実習では地域医療、救急医療、総合診療、感染症に重点をおいた6つの専門コースを新設し、地方と都市で異なる特性を互いに補完しながら、単位互換制の交換実習を展開



「宮崎県キャリア形成プログラム」

高岡町の若衆の医療を担う医師の確保とスキルアップを目的として設定されたプログラムです

二次医療圏	医師偏在指標
宮崎東麓圏	292.2
日南串間	175.7
西都児湯	154.6
都城北麓圏	151.7
西諸	146.4
延岡西臼杵	143.9
日向入郷	137.6
宮崎県	210.4
全国	239.8

医師不足
医師偏在
解消



高木 兼寛

コース選択制診療参加型臨床実習



単位互換制度に基づく学生交換実習

- ④ 都市型総合診療コース
- ⑤ 都市型感染症診療コース
- ⑥ 都市型救急診療コース

- ① 地域包括ケア実践コース
- ② 長期滞在型地域包括ケア実践コース
- ③ 地域連携型救急診療コース

オンデマンド教材／VR・シミュレーション

有機的に統合した領域横断的教育



遠隔対応

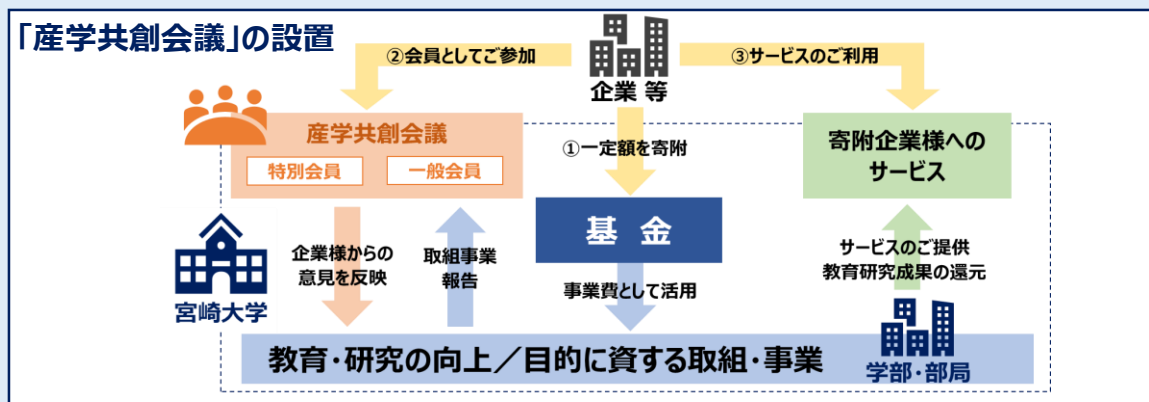


様々な地域の構造や特性を理解し、総合診療や救急医療、感染症をはじめとする新たな時代の多様な医療ニーズに応え、診療にあたる地域を問わずに、適切な医療を実践できる医師の養成

6. 地域企業等との連携強化

○産学共創会議

本学が地域を支える人材の育成、地域産業の振興、宮崎ならではのイノベーションの創出、地域・企業における国際化支援等を推進することで産業界との連携を一層強化するための仕組みとして「産学共創会議」を設立した。県内の産業界からの支援を受け本学の教育研究をより一層向上させ、また、その成果を広く地域の産業に還元するため産業界との対話を重ねることで連携を強固にし、最終的には**産学共創による事業の創出と地域及び産業の活性化**を目指す。



○株式会社デンサンとの包括連携協定

宮崎県内IT企業株式会社デンサンと学び・学生支援機構が**数理・データサイエンス・AI教育における産学共同教育体制**並びに**デジタル人材育成**等を目的として包括連携協定を締結した。本学と株式会社デンサンは令和4年度に市民向け公開講座の「ミヤダイミライ塾」でDXをテーマにした講座を実施したほか、腰部にかかる負担を胸ポケットに入れたスマートフォンでリアルタイムで数値化して表示するアプリケーションを開発するなど、様々な分野で連携を深めている。また、本協定に基づき、地域課題解決型インターンシップを実施し、令和4年度はリゾート施設を運営するフェニックスリゾート株式会社でフードロス問題をAIで解決する課題に取り組んだ。

▼ 包括連携協定調印式



▼ 講座「DXを学ぶ」



▼ 腰部負担推定アプリ



7. 大学発信力の強化

令和4年4月に設置した広報戦略担当理事により、各種**宮崎大学オリジナル商品開発**が進み、本学への寄附への返礼品のラインナップが充実した。宮崎大学の研究成果や産学連携活動によって開発・製品化された商品や学生・卒業生が開発・製造に携わっている商品「**宮崎大学関連商品**」を企画し、寄附者特典として追加することにより、基金活動を通して本学の研究成果や取り組みを知ってもらうことに加え、卒業生とのつながりや連携を深めることにも繋がっている。

また、宮崎県の有名お菓子メーカー「お菓子の日進堂有限会社」と提携した「青島せんべい 宮崎大学特別パッケージ」を販売できることとなり、宮崎を代表するお土産とのコラボレーションにより、今後の**宮崎大学の発信力向上と学章使用料による収益増**が期待できる。

令和3年度から開始した、個性溢れる教職員・学生にスポットを当てた特集記事「宮崎大学のひと」では、令和4年度に6人を紹介し、2年間で25人を紹介した。これらの記事を通じて、「首都圏にはない自然豊かなリゾート環境（＝非日常空間）のなかで、心落ち着かせて勉学に集中できる」といった、他大学にない優位性を打ち出しながら、宮崎大学の強み・特色を受験生に発信している。ウェブサイトトップページの背景写真やFacebook・Instagramの写真はほぼ毎日更新しており、学生の活動の様子や季節の花や景色を掲載し、宮崎大学を取り巻く環境の良さを伝えていることから、Instagramのフォロワーも令和4年度内に約650名増加した。

▼宮崎大学関連商品



▼青島せんべい
宮崎大学特別パッケージ



▼宮崎大学ウェブサイトトップページ掲載の写真



▼宮崎大学のひと

